風土記の丘の花だより343

今、そしてこれから見られる植物（2026年10月24日）

ナンバンギセルが次から次へと顔を出してきています。はじめは「場所はナイショ」としていましたが、口から口へ広まって、今では多くの方が優しく見守ってくれています。この様子だと、みなさんの植物愛につつまれながら、実を結びたくさんの種子を残してくれることでしょう。

風土記の丘の植物はみんなのものです。見つけた人が独り占めにするものではありません。ササユリやワレモコウのようにならないよう、可愛いナンバンギセルを見守ってください。



ナワシログミの花があちらこちらで咲いています。純白ではなく、少し汚れたような白い筒状の花で、先が４つに開いています。葉は楕円形で硬く、裏が白っぽく見えます。来年の春には丸い実が赤く熟します。野外観察などで、子どもに「グミ、食べるか？」と言うと、子どもはプヨプヨしたお菓子のグミだと勘違いします。それほど野山の草木の実は子どもにとっては遠い物になってしまっているようです。大人が、不衛生、まずい、お行儀が悪いなどと思っているのでしょうか



紫色のクコの花が咲いています。先日、紀ノ川の河原を歩いたら、柿色というか朱色というか、とにかくきれいな実がたわわに実っていました。風土記ではあと少しかかりそうです。クコはナス科の植物です。そういえば、花がナスの花に似ていますね。クコの実は薬膳などで料理の上にポチッと乗っていますね。それほどおいしいとは思いませんが、何となく体にいいような気がします。他にも、実をお酒に漬けたり、葉をお茶にしたりと、活用法の多い植物です。



ヒメマツバボタンが咲いています。こんな草は普通、植木鉢や花壇に植えるものですが、この頃は道ばたでもよく見かけるようになりました。ですから、いろいろな帰化植物図鑑のスベリヒユ科の欄にはちゃんと載っています。園芸好きの方にはポーチュラカと言った方が分かりやすいのでしょうが、もともとは園芸植物で、それが野外に逸出した帰化植物は少なくありません。まさかわざと野外に捨てる人はいないでしょうが、少しの気配りで、生態系を乱さないように心がけたいものです。



ツワブキの黄色い花が咲いています。秋が深まり、花が少なくなってくる頃、このまっ黄色の花は私たちの目を楽しませてくれます。ツヤがあり、大きく円い葉の中から長い花茎をのばし、たくさんの花を上向きに咲かせます。ツワブキはキク科の植物です。キク科にはよくあることですが、同じツワブキでも、いろいろな花が咲きます。花びらの形が円いか細長いか、一重か八重かなど、多様な花を探すのも楽しみの一つです。松下